

ヨシュア記 5 章「イエスは私たちの司令官、私たちは主の兵士」

5:1 ヨルダン川のこちら側、西のほうにいたエモリ人のすべての王たちと、海辺にいるカナン人のすべての王たちとは、【主】がイスラエル人の前でヨルダン川の水をからし、ついに彼らが渡って来たことを聞いて、イスラエル人のために彼らの心がしなえ、彼らのうちに、もはや勇気がなくなってしまう。 5:2 そのとき、【主】はヨシュアに仰せられた。「火打石の小刀を作り、もう一度イスラエル人に割礼をせよ。」 5:3 そこで、ヨシュアは自分で火打石の小刀を作り、ギブアテ・ハアラロテで、イスラエル人に割礼を施した。 5:4 ヨシュアがすべての民に割礼を施した理由はこうである。エジプトから出て来た者のうち、男子、すなわち戦士たちはすべて、エジプトを出て後、途中、荒野で死んだ。 5:5 その出て来た民は、すべて割礼を受けていたが、エジプトを出て後、途中、荒野で生まれた民は、だれも割礼を受けていなかったからである。 5:6 イスラエル人は、四十年間、荒野を旅していて、エジプトから出て来た民、すなわち戦士たちは、ことごとく死に絶えてしまったからである。彼らは【主】の御声に聞き従わなかったので、【主】が私たちに与えると彼らの先祖たちに誓われた地、乳と蜜の流れる地を、【主】は彼らには見せないと誓われたのであった。 5:7 主は彼らに代わって、その息子たちを起こされた。ヨシュアは、彼らが無割礼の者で、途中で割礼を受けていなかったの、彼らに割礼を施した。 5:8 民のすべてが割礼を完了したとき、彼らは傷が直るまで、宿営の自分たちのところにとどまった。 5:9 すると、【主】はヨシュアに仰せられた。「きょう、わたしはエジプトのそしりを、あなたがたから取り除いた。」それで、その所の名は、ギルガルと呼ばれた。今日もそうである。 5:10 イスラエル人が、ギルガルに宿営しているとき、その月の十四日の夕方、エリコの草原で彼らは過越のいけにえをささげた。 5:11 過越のいけにえをささげた翌日、彼らはその地の産物、「種を入れないパン」と、炒り麦を食べた。その日のうちであった。 5:12 彼らとその地の産物を食べた翌日から、マナの降ることはやみ、イスラエル人には、もうマナはなかった。それで、彼らはその年のうちにカナンの地で収穫した物を食べた。 5:13 さて、ヨシュアがエリコの近くにいたとき、彼が目を上げて見ると、見よ、ひとりの人が抜き身の剣を手に持って、彼の前方に立っていた。ヨシュアはその人のところへ行って、言った。「あなたは、私たちの味方ですか。それとも私たちの敵なのですか。」 5:14 すると彼は言った。「いや、わたしは【主】の軍の将として、今、来たのだ。」そこで、ヨシュアは顔を地につけて伏し拝み、彼に言った。「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか。」 5:15 すると、【主】の軍の将はヨシュアに言った。「あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」そこで、ヨシュアはそのようにした。

導入

5章の学びを始める前に、これまでの学びを少し振り返りましょう。

モーセの死後、神はヨシュアに語られ、イスラエルの民を率いてヨルダン川を渡り、アブラハムとその子孫に神が約束された土地を獲得するよう命じられました。

神は、ヨシュアを一生守り、誰もヨシュアを倒せる者は出てこないと言いました。またその条件として、律法五書（聖書の最初の5つの書）を常に守るようにおっしゃいました。ヨシュアは日夜、これらの書に思いを巡らし、そこに記された掟に従わなければなりません。（ヨシュア 1:8）

神はヨシュアに繁栄を約束なさいましたが、ヨシュアはその約束にあぐらをかかず、知恵を働かせて作戦を実行しました。まず、自分たちが獲得すべき土地を調べるためにスパイをふたり送りこむことにしました。

スパイのふたりは、エリコの町を訪れ、ラハブという女性と出会います。以前の彼女は遊女でしたが、今は宿屋の経営をしながら、亜麻の商売をしていました。神は彼女の心に働いてくださいました。彼女は、イスラエルの民に神がしてくださった業について聞いていました。

また、エジプトで奴隷生活を送っていた 200 万人のユダヤ人を神が奇跡的に救い出してくださったことも聞きました。

葦の海がふたつに分かれたことや、荒野を旅する中でイスラエルの民がふたりの王と戦って勝利したことも聞きました。

そして、エリコの町の人々は、イスラエルの民とその神を恐れている、とスパイたちに告げました。

ラハブは、イスラエル人の神を自分は信じたとスパイに語り、ふたりを屋上にある亜麻の茎の間に隠して彼らの命を守りました。

スパイたちは、窓に赤いひもを結びつけるようにラハブに言いました。イスラエルの民がエリコの町を襲うとき、赤いひもを窓に結び付けた家の中にいれば、ラハブも家族も救われるのです。

こうしてスパイたちは無事逃れ、ヨシュアに情報を伝えました。

先週は、イスラエルの民がヨルダン川を渡る備えをしたことを学びました。

人々は人生の新たなスタートに向けて、実用的な準備をし、霊的に整えられました。

民が神の聖さの証として聖別されることを神は望まれました。また、民が整えられる必要性に加え、「契約の箱」を適切な場所に配置する必要もありました。

「契約の箱」は神のご臨在の象徴でした。「箱」は人々の約 1km 離れたところを進みました。これは、起ころうとしている偉大な奇跡を民がちゃんと目撃できるためです。また、ヨルダン川を分けてくださるのは神ご自身であることを民が認識することも重要なポイントでした。祭司たちは、民全員が渡りきるまで「箱」を担いだまま川の中にいなければなりません。

そして、民は新しい指導者に従う必要がありました。神はモーセを用いて民をエジプトから導き出してくださいました。今度はヨシュアを用いて、民を約束の地へと導いてくださるのです。

イスラエルの民が無事、乾いた地を向こう岸のエリコへと渡ると、ヨシュアは 12 の大きな石を川から取ってギルガルに積むように命じられました。12 の石はひとつひとつがイスラエルの十二部族の象徴です。これらは、神がヨルダン川を分けてくださった御業を覚えるための記念でした。

これらの記念の石は、次の世代への証になります。先週の適用の部分で、信仰の大きな敵に「忘れっぽさ」があることをお話ししました。

ですから、私たちも生活の中で神がしてくださった素晴らしいことをノートなどに書きとめておくのはよいことです。クリスチャン生活で困難にぶち当たるとき、または信仰の大きな一歩を踏み出そうとするときに、これらの奇跡を読み返して思い起こすことができるからです。

聖書の神は、今私たちの人生に働いておられる神と同じお方です。

私たちにも、神のみことばを信じて信仰によって行動するよう求められます。

神が私たちの人生で成したいと望まれることに従うことがすべてです。私たちは主役ではありません。私たちは神が働きをなさるためのしもべであり器に過ぎません。

神は私たちが必要とはなさいません。けれども、あらかじめ私たちのために備えられた良い行いをするように、イエスにあって選んでくださいました。(エペソ 2 : 10) 神の御国の建設に、私たちひとりひとりの役割があります。ヨシュアのように神のみことばに思いをめぐらし、ひとりひとりがきよめられることは、このご計画の大切な一部です。

イスラエルの民にとって、新生活のスタートにはきよめが必要でした。私たちにとっても同じです。この新しい生活の必須条件は、自分を捨てることです。つまり、神に仕えるために人生のすべてをおさげすることです。

では、ヨシュア 5 章に入りましょう。5 章はたった 15 節ですが、その中には学んで日常生活に応用すべき教えがたくさんあります。

5 章のおもなできごとは 4 つあります。それぞれを順番に取り上げていきましょう。

1. 男性に割礼が施された。(2-8 節)

5 節には、荒野で生まれた人々は割礼を受けていなかったとあります。なぜ今になって割礼をしなければならないのでしょうか。なぜ荒野で割礼を施さなかったのでしょうか。

創世記 17 : 1-14 を読みましょう。

17:1 アブラムが九十九歳になったとき【主】はアブラムに現れ、こう仰せられた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。 17:2 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたをおびたたくふやそう。」 17:3 アブラムは、ひれ伏した。神は彼に告げて仰せられた。 17:4 「わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる。 17:5 あなたの名は、もう、アブラムと呼んではならない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしが、あなたを多くの国民の父とするからである。 17:6 わたしは、あなたの子孫をおびたたくふやし、あなたを幾つかの国民とする。あなたから、王たちが出て来よう。 17:7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。 17:8 わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」 17:9 ついで、神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、あなたの後のあなたの子孫とともに、代々にわたり、わたしの契約を守らなければならない。 17:10 次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。 17:11 あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたの間の契約のしるしである。 17:12 あなたがたの中の男子はみな、代々にわたり、生まれて八日目に、割礼を受けなければならない。家で生まれたしもべも、外国人から金で買い取られたあなたの子孫ではない者も。 17:13 あなたの家で生まれたしもべも、あなたが金で買い取った者も、必ず割礼を受けなければならない。わたしの契約は、永遠の契約として、あなたがたの肉の上にするされなければならない。 17:14 包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、その民から断ち切られなければならない。わたしの契約を破ったのである。」

イスラエルの民は神に従わずに契約を破りましたが、神はご自身の契約を破っておられませんでした。

創世記 17 章でアブラハムに約束された地をここで民に与えようとしておられます。

つまり、神がご自身の契約を成就しようとなさっているので、イスラエルの男性全員に、契約への同意のしるしとして割礼を受けるよう命じられたわけです。

以前民は、神を信頼しなかったことで、約束の地に入ることができませんでした。その結果、民は割礼を受けることで契約を守っていると表明するのを拒んだのです。

これについて、新約時代の捉え方については後ほど適用の部分でお話します。

0. 過越しを祝う。(10-11 節)

イスラエルの最初の過越しはエジプトで始まりました。これは出エジプト記 12 章に記されています。次に過越しの様子が記録されているのは、民数記 9 : 5 で、シナイの荒野でした。今度は、三度目の過越しを約束の地で祝えるのです。

割礼は、過越しの祭りに参加する前提条件でした。

出エジプト 12:48 もし、あなたのところに異国人が在留していて、【主】に過越のいけにえをささげようとするなら、彼の家の子はみな割礼を受けなければならない。そうしてから、その者は、近づいてささげることができる。彼はこの国に生まれた者と同じになる。しかし無割礼の者は、だれもそれを食べてはならない。

民は時間をかけてじっくりと、自分たちをエジプトの奴隷生活から救い出すために神がなしてくださった業を思い起こしました。

今でもユダヤ人は毎年過越しを祝います。エジプトから救い出されたできごとを記念して歌を歌います。ユダヤ人文化では、この経験は今もそのリアルさを保っています。

彼らは、子羊の血によって救われました。神の御怒りから救ったのはその血でした。自分たちの命の代わりに、無実の動物の命がささげられたのです。

子羊は身代わりの犠牲でした。

後ほど、これが主イエス・キリストの死を直接指し示していることを明確にしましょう。

0. イスラエルの民が現地の穀物を食べると、マナは降らなくなった。(11-12 節)

11-12 節では、大きな変化が起こります。民は約束の地の産物を食べました。それはさほど驚くべきことでもないと思えるかもしれませんが。

しかし、思い出してください。200 万人を超える人々は、それまでの人生ほとんどを、神が毎日与えてくださるマナの奇跡に頼っていたのです。

民は「天の食物」を週に 6 日集めました。しかし、日曜日には何もありません。毎日、その日に必要な分だけを集めるように命じられます。その日の必要以上に集めることは許されていませんでした。

必要以上に集めた人もいましたが、それは腐ってしまいました。しかし、土曜日には二日分集めることができ、それは腐りませんでした。民が翌日出て行って集める必要がないようにです。(出エジプト 16 : 4-26)

十戒で神は、7 日のうち 1 日を休みと定められました。民が休息を取り、仕事を休んで、その日を聖なる日とするためです。

40年経って、神はマナを止められました。民は土地の産物を食べることができました。ヨシュア 3 : 15 から、このときは収穫時期だったことがわかります。

ヨシュア 3:15 箱をかつぐ者がヨルダン川まで来て、箱をかつぐ祭司たちの足が水ぎわに浸ったとき、——ヨルダン川は刈り入れの間中、岸いっぱいにあふれるのだが——

イスラエルの民は、農業を一から学ばなければなりませんでしたが、一年目は種まきをすることなく刈入れをしました。雨や日光を与えてくださる神にこれからも頼ることに変わりはありませんが、これからは食物を作るために民自身も働かなくてはなりません。

0. イエスがヨシュアに現れ、イスラエルの軍の司令官だと名乗られる。(13-15 節)

13-15 節は、非常に重要な個所です。聖書学者たちはこれを「神の顕現」と呼びます。「神の顕現」とは、旧約聖書中に受肉前のイエスが現れることです。

イエス・キリストは旧約聖書の中でも生きておられます。このお方は三位一体の一部であられ、永遠に存在しておられます。さまざまな姿や形で現れます。旧約聖書の全章にイエスを明らかに見ることができます。

ある英語のスタディバイブルで、ある学者が旧約聖書のすべての章にイエスを見つける試みをしました。弟子訓練コースにある 60 の暗唱聖句に挑戦しているなら、暗唱に成功したときの賞にはこのスタディバイブルを選ぶとよいかもしれません。

さて、もとの話に戻りましょう。13-15 節を読んで、どんなことが起こったか思い出しましょう。

5:13 さて、ヨシュアがエリコの近くにいたとき、彼が目を上げて見ると、見よ、ひとりの人が抜き身の剣を手に持って、彼の前方に立っていた。ヨシュアはその人のところへ行って、言った。「あなたは、私たちの味方ですか。それとも私たちの敵なのですか。」 5:14 すると彼は言った。「いや、わたしは【主】の軍の将として、今、来たのだ。」そこで、ヨシュアは顔を地につけて伏し拝み、彼に言った。「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか。」 5:15 すると、【主】の軍の将はヨシュアに言った。「あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」そこで、ヨシュアはそのようにした。

これがイエスの現れだとどうしてわかるのでしょうか。また、イエスがご自身を現された目的は何でしょう。

1. 出エジプト 3 : 5 にあるモーセへの呼びかけ

出エジプト 3:5 神は仰せられた。「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」

イスラエルの民をエジプトから救い出すようにと神がモーセを召されたとき、神は燃えているのに焼け尽きない柴からご自身を現されました。そして、モーセに履物を脱ぐようにとおっしゃいました。モーセの立っていたのが聖なる場所だったからです。

このことから、ヨシュアは目の前にいるのがただの兵士ではなく、イエスのかたちで現れた神であると確信しました。

2. 14 節でヨシュアはこの兵士を拝んだ。

神の性質を持つ人と出会ったのだという思いがなければ、ヨシュアは拝んだりしなかったはずで。黙示録 19 : 10 では、ヨハネが御使いを拝むと、それを咎められます。しかし、ヨシュアがこの兵士の足元で伏し拝んでも咎められることはありませんでした。

これは天使ではなく、イエスのかたちで現れた神である証です。

3. 14 節で兵士は、自らが主の軍の将であると言った。

大きな軍を勝利に導くことができるのは誰でしょう。これはヨシュアの役目でしょう。いいえ違います。この軍を取り仕切っているのはイエスご自身です。

イエスはヨシュアを助けるためだけにそこにおられたのではありません。このお方が軍の司令官なのです。イエスが指揮を取られるのです。

ヨシュアは重荷を下ろした気分だったことでしょう。数々の戦いに勝つのは彼の責任ではないのです。最善を尽くす必要はありますが、イエスが前で軍を率いてくださいます。

4. 14 節で、ヨシュアは将に降服した。

このお方が神ご自身でなかったなら、ヨシュアは他の司令官に降服したりしなかったでしょう。けれどもヨシュアはここで、「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか。」と言って、進んでこの将に降伏しました。神の約束が成就するにあたり、異邦人を滅ぼさなければなりません。また、彼らの邪悪さを罰しなければなりません。ヨシュアは、神がそのすべてを取り仕切ってくださることを知り、大いに励まされました。

適用

1. 男性の割礼から、私たちに応用できる教えを得る必要があります。

男性の皆さん、ご安心ください。クリスチャンなら体の痛みを伴う割礼を受ける必要はありません。

まず、ヨシュア 5 章のふたつの箇所を見ましょう。ひとつめは 5 節です。そこには、エジプトから出てきた人たちは皆割礼を受けていたとあります。そして 6 節を見ると、その人たちは誰も神の御声に聞き従わなかったとあります。

そうです。彼らは割礼を受けていましたが、それが従順にはつながりませんでした。

では、申命記 10 : 16 を読みましょう。

申命記 10 : 16 あなたがたは、心の包皮を切り捨てなさい。もううなじのこわい者であってはならない。

次にエレミヤ 4 : 3-4 を読みましょう。

4:3 まことに【主】は、ユダの人とエルサレムとに、こう仰せられる。「耕地を開拓せよ。いばらの中に種を蒔くな。 4:4 ユダの人とエルサレムの住民よ。【主】のために割礼を受け、心の包皮を取り除け。さもないと、あなたがたの悪い行いのため、わたしの憤りが火のように出て燃え上がり、消す者もないだろう。」

肉体に施す割礼は、心に施された霊の割礼を象徴するものでした。

では次に、コロサイ 2 : 11-14 を読みましょう。

2:11 キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。 2:12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。 2:13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、 2:14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。

神が私たちに語っておられるのは、神の民であるという証印を押されても、神の民としてあるべき姿勢を欠いている可能性はあるということです。

イスラエルの民はエジプトを離れ、神の奇跡の数々や葦の海が分かれるのを目の当たりにしました。マナを食べ、岩から水が流れ出すのも見ました。けれども、彼らの心はまだ信じませんでした。彼らが約束の地に入れなかったのは、心から神を信じ切ることがなかったからです。

私たちはどうでしょう。私たちは本当に神を信じ切っていますか。福音の知らせは私たちのたましいの奥深くまで届いていますか。神の恵みの福音を本当に理解しているのでしょうか。神がどれほどのことをしてくださったかわかっているのでしょうか。

コロサイ 1:13 は、私たちが本当にクリスチャンで新生しているなら、暗闇の力から救い出されていると語ります。これは現在形です。再び救い出す必要はありません。その業はすでに十字架で完了しています。私たちはただこの真理を信じるだけでよいのです。真理は私たちを自由にしてくれます。

クリスチャンのふりをしていても意味はありません。本当にクリスチャンでなければなりません。

本物になるには、イエスと出会うしか方法はありません。罪を悔い改め、イエスが赦してくださることを信じ、喜んで弟子になることです。弟子になるには「自我に対する死」が必要です。

2. 過越しは明確にイエスを指し示す。

イエスは、罪のない男性で、神の小羊でした。イスラエルの民は、欠陥のないオスの子羊をほふるように命じられました。

民は、定められた時に子羊をほふらなければなりません。イエスも、定められたときに十字架上で死ななければなりません。それは、神殿での午後のいけにえでした。イエスは、すべての動物のいけにえの代わりとなりました。

子羊の血を門柱と鴨居に塗らなければなりません。私たちもイエスが流された血を信じない限り、神の御怒りから守られません。

民は、子羊の骨を折ってはならないと命じられました。なぜでしょう。それは、イエスが十字架にかかっておられたとき、兵士たちが足の骨を折ろうとしましたが、イエスはすでに死んでおられたので、代わりに体を槍で突いたからです。

過越しの工程はすべて、イエスの十字架上の死にあてはめることができます。過越しはユダヤ人に神の奇跡的な業を思い出させてくれました。私たちにっては聖餐式が、イエスをとおしてなされた神の奇跡の業を思い起こさせてくれます。

3. マナが止まり、土地を耕す労働が始まった。

マナは、非常時に奇跡的に与えられた食物です。食物が必要であることに変わりはありませんが、その与え方が通常のものに変わりました。とは言え、備えてくださるのは神です。もっと日常的な方法で備えてくださるようになっただけです。

例話

ある聖書学生が車で学校に向かう途中、大事故に巻き込まれました。もう一台の車の運転手は重傷です。聖書学校の学生はショックを受けましたが無事でした。彼は聖書学校の校長のところに行ってひざまずき、奇跡的に命を守ってくださったことを神に感謝しました。

校長は言いました。「あの道路を私は 40 年も通っているが、まだ一度も事故に遭ったことはない。これも、君が今日経験したのと同じくらいに奇跡だ。これからは、毎日神があわれんでくださっていることを感謝するとよいだろう。」

私たちが見えないところで、神はご自身の目的を果たし、ご計画に基づいてご自身の民を守り導いてくださっています。そのことを忘れないようにしましょう。

神は超自然的な業においても日常的な事柄においても神であります。

毎日神のあわれみを感謝するのに、奇跡は必要ありません。日常の小さなことを感謝しましょう。天の父がその陰にいてくださることを覚えて感謝しましょう。

3. イスラエルの軍の司令官

イスラエルの民は約束の地を手に入れようとしていました。イエスがイスラエルの軍の司令官であることは明らかです。

私たちのクリスチャン生活でも、罪に勝利したいと思うなら、人生の司令官はイエスであるべきです。イスラエルの民にとって、手に入れるのは土地でした。私たちが手に入れるのは、イエスが司令官としてともにいてくださる人生です。

ヨシュアはイエスと出会いました。そしてこのお方を礼拝し、ひれ伏して降服しました。ヨシュアは、イエスの言うことを聞こうとしたのです。

私たちが生ける神イエス・キリストと出会ったなら、私たちの人生をもって主がなさりたいことに降服・服従するべきです。

あなたは今、そうしようと思いませんか。

もしそうなら、今こそが神に人生のすべてを明け渡すべき日です。

祈りましょう。